

## 河北省滄州で9羽のノガンが災難

田雲奎

滄州師範専科学校生物科

訳 福井和二

2002年1月22日から2003年1月3日までの1年間、河北省滄州域内で前後して9羽のノガン(*Otis tarda*)が死傷した。その内6羽が死亡(1♂5♀)、3羽を当地の公園に收容保護し、死亡した6羽は滄州師範専科学校において標本とした。

2002年3月4日、滄州の呉橋県と東光県の県境で小魏庄と勝利村の村民は龍王河沿いの麦畑に相次いで4羽の衰弱して飛べないノガンを発見し、外傷はなく、滄州師範の学生が救護にあたったが3羽が死亡した。1羽は回復し、滄州市公園で飼育された。死亡した3羽は解剖された。胃内容分析では麦粒が主で、他に植物の若芽が検出され、また、麦粒には有機磷系の農薬が検出された。当地の農民によると、少数の農民が羊の放牧から麦の若芽を守るため麦畑の周辺に、農薬に漬けた小麦を撒く者がいるとのことで、これによる中毒と思われる。

2002年3月9日東光の北20kmの白頭市附近で、明らかに農薬中毒と思われる1羽を発見した。呼吸困難で口から唾液を出し、羽毛がぼうぼうと逆立っていた。

2002年1月22日および2003年1月3日、青県と滄県の間を流れる2本の河の間で傷害を受けた4羽のノガンが発見されている。4羽はすべて脚の骨折で治療の甲斐なく死亡した。胃の剖検では大豆が多く見られたが、毒物は検出されなかった。これは、鉄の毘による密猟と思われる。

ノガンはロシア東南部、蒙古草原と我が国東北部および黄河と長江流域に分布する、我が国一級重点保護鳥類である。1年のうちに9羽ものノガンが滄州において鉄毘や毒物による危害を受けている。これはノガンの生存に重大な影響を与え、しかもその原因がすべて人による密猟によるものである。行政は強力な取り締まりをもって密猟の取り締まりを行なわなければならない。さらに、あらゆるメディアを使ってノガンの保護の重要なことを報道し、愛鳥、保護意識を高め、ノガンの生存に良好な環境を提供すべきである。